

南アフリカ トラベルインフォメーション

ビザ

日本人は、観光、業務目的の場合、ビザが不要。滞在可能期間は90日以内。

空路で入国の場合は、往復の航空券が必要。

パスポートの残存有効期限は滞在日数以上必要。

査証欄空欄は見開き2ページ以上必要

その他:

ジンバブエ、ボツワナはパスポートの残存期間が6ヶ月以上必要

ザンビアはパスポートの残存が滞在日数以上必要

上記条件は変更になる場合もございますので、各大使館でご確認下さい。

言葉

英語が共通語としてたいていどこでも通じる(その他、アフリカーンス、ズールー、コーサ、ソト語など11の公用語)

通貨 カード

通貨はRANDランド(R.) 1R = 約 11.67円(2010年 2月現在)。補助単位はセント。(1ランド=100セント(Cents))

ほとんどの空港には24時間営業の両替所があり、日本円からランドへの両替可。また市内の銀行やホテルでも両替可

しかし円の現金は、まだ見慣れておらず照会には、時間がかかるので、いざというときは、米ドル現金が便利です。

(銀行の営業時間は平日9:00 ~ 15:30)

入国時の持込制限はないが、出国時にランドを再度日本円その他の外貨に両替する際には、

外貨からランドに両替した際のレシートが必要となる。

現金を大量に持ち歩くのは危険なので、出来るだけ少なめに。ホテル、レストランでの食事はクレジットカード

(ビザ、マスター、アメックス、ダイナース等)も幅広く使える。 **ジンバブエでは、VISAカードのみ利用可。**

日本国内では交換できないので、必ず南アフリカ出国時に再両替を済ますこと。

税関

お酒類はスピリッツ等のアルコールは1リットル、ワイン2リットル、紙巻タバコ400本、葉巻50本の持ち込みOK。

通貨、個人の携帯品の持込に関しては制限なし。

持込禁止は麻薬、ポルノ、銃器類。

18歳未満は、タバコ、アルコール類の購入はできない。

物品税(V.A.T.)の還付

南アフリカでは、全ての商品に一律14%の物品税(Value Added Tax)が加算される。

但し外国人旅行者が国外へ持ち出す商品については、購入価格の合計が250ランド以上になる場合に限り、

還付請求を行う事ができる。

還付請求は通常、出国する空港で行う。

請求手続きをする際には、所定の書類に必要事項を記入の上、原則として購入した物品の提示が必要になる。

請求窓口は、時間帯によって混雑する場合も多いので、請求手続きをする場合は時間的に余裕を持っておくとい

シーズン 気候 服装

日本と季節が逆になる。

また、夏でも山や海では夜間冷え込む。ウインドブレーカーやセーターなど重ね着出来る服装が適している。

南アフリカは平均日照時間が8.5時間と長く、年間を通じて日差しが強い為、日焼け対策が必要。

帽子、サングラス、日焼け止め等を持参した方が良い。

チップ

ホテルでの枕銭、ポーターなどに渡すチップは1回あたりR3～5前後が相場。
レストランでのチップは、サービスチャージが含まれていれば不要だが、含まれていない場合は合計金額の10%前後を目安とすると良い。送迎の運転手には二人でR5程度、観光等の運転手には二人でR10～15程度が目安。
タクシーの運転手へはR5程度。

ショッピングアワー

ショッピングセンターは通常毎日営業しているが、地方では日曜休業の場合が多い。
月曜～土曜:9:00～17:00
日曜:9:00～14:00
但し大都市のショッピングモールは比較的夜遅くまで営業している

ビジネスアワー

一般的なビジネスアワーは、月曜～金曜8:00～17:00
官公庁は通常、月曜日から金曜7:30～16:00

通信設備

インターネットはかなり普及している。大きなホテルはもちろん、小さな安宿にもパソコンが完備されている
20分10R程度で使用できる。町にもインターネットカフェがあり、パソコンの普及率はとても高い。
ホームページを持っている店や宿泊施設も多いので旅の情報収集に便利。
南アフリカ以外の諸国はインターネットの接続環境は遅れている

電気器具

220/230V(プレトリア230V、ポートエリザベス200/250V)、50Hz。
電源プラグは3又丸型が使用されている。
主要なホテルにはヘアドライヤーが備え付けられている

飲料水

水道水も飲料可能だが、ミネラルウォーターを飲用したほうがベター。地方では、多少注意が必要。

時差

グリニッチ標準時より2時間先、日本より7時間遅れ。(日本が正午12時の時、南アフリカは朝5時)。サマータイムは、ない。

民族構成

コーサ、ズールー、ソト、ツワナなどのアフリカ先住民族77%、
ヨーロッパ系(アフリカーナ、イギリス系など)11%、カラード9%、アジア系(インド系など)3%

宗教

大部分がキリスト教徒(オランダ改革教会、メソヂスト、アフリカ独立教会等)79.8%、他にイスラム1.5%、ヒンドゥー1.2%、ユダヤ教など、他にも各部族伝統的な自然崇拜などがある。

治安

通常の旅行では問題ないが、都市部の一部地域では犯罪率が比較的多いところがあるので、旅行者は次のことを遵守すること。

- ・大金を持ち歩かない。
- ・貴重品をひと目にさらさない。男性はズボンの後ろポケットなどから財布を見せない、女性は外出時に目立った装飾品を身に付けない。
- ・ホテルや空港でチェックインする際などに、荷物から目を離さない。
- ・車を運転しているときには、ヒッチハイカーを乗せない。
- ・運転中は窓を閉め、ロックする。車中に貴重品を置いて駐車しない。
- ・特に日没後の不要な一人歩きはしない。
- ・ホテルから外出する際には、ガイドやフロントで危険な地域がないかどうか確認しておく。

マラリア予防

湿地帯や亜熱帯地域を訪れる場合には、マラリアの予防薬を服用する事をお勧めする。特に5月～10月は注意が必要。

予防には薬の服用が一般的だが、現在、日本国内で予防薬を入手することはできないので、現地に到着してから市内の薬局で購入する。

薬局で目的地を伝えるとその地域に適した予防薬を勧めてくれる。マラリアの予防薬は24時間後から効果が現れる。但し、妊娠中の場合やその予定がある人、すでになんらかの薬を服用している人は、事前にかかりつけの意思に相談してから服用すること。

また、蚊に刺されないように長袖、長ズボン着用と虫除けスプレーや蚊取り線香を利用するとよい。

日差しと熱中症

野外にいるときには帽子はもちろん、紫外線防止効果の高い日焼け止めを使用する。また日中は日差しから肌を守る為に、薄手の長袖綿シャツを着ると良い。

特に気温が高いときには、十分に水分を摂ること。

ハイキングのような何日間にわたるアクティビティを計画している場合は、特に対策が必要。暑い日に汗が出なくなったり、意識が混濁したり、頭痛があれば、熱中症の可能性があるので直ちに医師の治療を受けること